修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
〒101　東京都千代田区
神田錦町1-17-1（NK第一
ビル）☎03（5259）0631
振　替　00160－7－36337

財団法人全国修学旅行研究協会（全修協）は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団である。

文化財を火災から守ろう　（1月24日、東京・上野）

一月二十六日の「文化財防火デー」に先立ち、班別自主活動の児童生徒が見守る中で行われた消火訓練。

「主体性を伸ばし、行動力を高める修学旅行」を主題に

第13回全国修学旅行研究大会

全国各地から354名が参加
12月4日に名古屋で開催

第十三回全国修学旅行研究大会が、十二月四日名古屋市教育センター講堂で、全国から三百五十四名の参加者を集め、盛大に開催された。

本大会は、主催が東海三県中学校修学旅行委員会（青木一委員長・名古屋市立富士中学校長）及び財団法人全国修学旅行研究協会（鈴木力理事長）。また文部省、都道府県教育長協議会、東海三県教育委員会並びに名古屋市教育委員会が後援している。

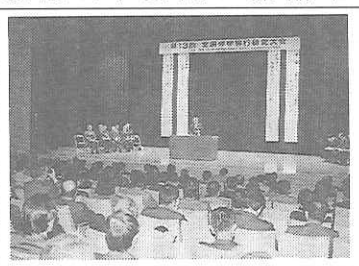
十三時、黒川修委員（名古屋市立御田中学校長）の司会により、後藤文宏副委員長（岐阜県穂積町立穂積中学校長）が開会を宣言し、主催者を代表して青木委員長、鈴木理事長があいさつ、名古屋市教育委員会指導室長の来賓祝辞の後、大会のテーマである「主体性を伸ばし、行動力を高める修学旅行」に沿って次の研究発表が行われた。

一、名古屋市立城山中学校　井辰幸司教諭
「伝統工芸学習をとり入れた修学旅行」

二、三重県津市立西橋内中学校　豊田眞理子教諭
「自ら考え行動する修学旅行をめざして」

研究協議では、岩月健（岡崎市立城北中学校長）・安藤龍藏（小牧市立篠岡中学校長）両委員の司会により、参加者から熱のこもった意見発表が行われ、愛知県教育委員会義務教育課和田守功指導主事から適切な指導講評があって、休憩後、東京家政学院大学成田國英教授の「教育の今日的課題―修学旅行への期待―」と題する講演があり、田中彌副委員長（三重県津市立西橋内中学校長）の謝辞と閉会のあいさつをもって、十六時三十分に閉会した。

（関連記事2・3面に）



盛況だった全国大会（名古屋市教育センター）

――主張――
ふるさとを見直そう

広報委員　中島和友

先月、東京ドームで「ふるさとフェア'97――全国観光と物産展」が開催され、多数の入場者が場外に長蛇の列を作るほどにぎわった。今年で第九回目となる。

第一回の開会は、昭和天皇崩御の日で、非常に寂しかったと記憶しているが、それに比べるとここ何回かは全く予想外の大盛況といえる状況である。

ふるさとフェアは、全国四十七都道府県が参加し、新しい観光スポットや特産品、ふるさとおこしなどの情報が一堂に把握できる機会である。今年は一月の彦根城（滋賀）新装開城に始まり、三月には秋田新幹線（岩手・秋田）と北越急行（新潟）の開業、秋には長野五輪に向けての北陸新幹線（群馬・長野）開業や本州横断の磐越自動車道（福島・新潟）全通、年末には東京湾横断道路（千葉・神奈川）開通も予定されており、また、羽田空港の新滑走路が今春完成すれば、東京と各地を結ぶ航空路線は一層便利になることが期待される。さらに、来年以降には明石大橋（兵庫）や尾道・今治ルート（広島・愛媛）ができ上って本四三橋時代を迎える。

人にはそれぞれのふるさとがある。生まれ育った土地を一生離れない人もいるが、現代の日本人の大多数は、居住地を何度か移動しているのではなかろうか。特に、東京都民で都内に墓地を持つ人は百万そこそこという。九割以上の人々は、どこかの出身、即ちふるさとを持っているのである。海外に移住あるいは勤務している人々だけが望郷の念を持つのではなく、日本人のだれもがふるさとを思い、愛し、誇りとすることが望まれるが、最近その心を失っている人が多いのではなかろうか。

今、東京と各県庁所在地間は三時間以内で到達でき、すべて日帰りが可能である。今月、遠距離電話料も値下げされ、「ふるさとは遠きにありて思うもの」ではなく、かなり近い存在になった。しかし、気候風土は肌で感じなければ分からない。豪雪地帯の信州の駅には「うさぎ追いしかの山」の文部省唱歌〝ふるさと〟の作者生家の標識が立つが、大雪の日、菜の花の咲くころ等、季節感も是非味わいたいものである。そうすれば「ふるさとの山はありがたきかな」と感じられよう。

国際化の波に乗って、海外修学旅行が急増する傾向がある中で、まず自分のふるさとを知り、郷土の誇り、日本人の誇りを身につけることも大切である。自分の郷土を理解することから、その延長としての国土理解の深化へと進みたい。単なる郷愁というもののみならず、日本人の心を大切にしよう。初めて海を見たときの感激のように、初めて富士山を見たときの感動をもう一度思い起こし、ふるさとを愛する気持を呼び戻してほしいものである。

全国公立高等学校海外修学旅行の実態動向調査

平成7年度実施校を
全修協が集計中
韓国　中国、5日以内が主流

海外への修学旅行を実施する公立高等学校が、年々増加している。

財団法人全国修学旅行研究協会は、平成七年度に海外修学旅行を実施した公立高等学校百七十九校について、昨年実態動向調査を行い、百五十五校から回答を得た。

調査の諸項目については現在集計中であるが、その一部を紹介する。

訪問国と泊数は別表のとおりで、訪問国は韓国が59%、中国が30%を占め、泊数は四泊五日が58%、三泊四日が37%となっている。

また、実施月は九月13校、十月46校、十一月48校、十二月14校と国内同様この四か月に78%が集中、五～八月は22校、一～三月は11校。なお、四月の実施校は皆無であった。

訪問国・泊数　（平成7年度実施、平成8年調査、回答依頼179校）

訪問国／泊数	3泊4日	4泊5日	5泊6日	7泊8日	8泊9日	9泊以上	計
韓　国	47	43	2				92校
中　国	4	40	1		1		46校
シンガポール/マレーシア	1	4	2				7校
台　湾		2					2校
オーストラリア			1	1	1		3校
ニュージーランド						1	1校
カ　ナ　ダ						1	1校
アメリカ			1	1		1	3校
合　計	52	89	7	2	2	3	155校

平成8年の出入国者数が過去最高を更新

昨年一年間の日本人の出国者数は一千六百七十万人（対前年9%増）、外国人の入国者数は四百二十五万人（同14%増）と、いずれも過去最高を更新したことが、法務局入国管理局の速報で明らかとなった。

出国者増加は国民的な海外旅行ブームや国内旅行と比較しての割安感、入国者増は円安やアジア地域からの観光客増によるとみているが、出国者の対前年延び率は過去二年の10%台に比べ鈍化している。

修学旅行コーナーを
ホームページに開設

近畿日本ツーリスト

近畿日本ツーリストは、インターネットのホームページ〝ツーリスト村〟の「旅行情報館コーナー」に、修学旅行情報コーナー「インターネット・パピルス」を開設した。

内容は、同社教育旅行部が年四回発行の修学旅行情報誌「パピルス」をベースに、①修学旅行のトレンド〝トピックス〟②新設テーマパークなどの〝ホットスポット〟③修学旅行実施例の〝フォーラム〟など。

http://www.knt.co.jp/homejoho.htm

風紋

「春一番渦巻雲の北へ飛ぶ」　高須力。冬の終わりころ、日本海を通る発達した低気圧に、南からなま暖かい風が吹き込む現象だ。お天気博士倉嶋厚さんによると、江戸末期、壱岐の漁船の遭難からこの言葉が生まれ、やがて俳句の季語となり、戦後気象用語になったという▼「春は名のみの風の寒さや」。安曇野の穂高川畔に「早春賦」の歌碑が建つ。正面に常念岳など北アルプスの高峰を仰ぐ景勝の地だが、冬の寒さは特に厳しい。春を待ちわびる人々の心が切々と伝わってくる▼早春賦もそうだが、この季節になると、小学唱歌「冬の夜」もよく思い出す。吹雪の夜、灯火の近くで、縫物に余念のない母が春の遊びの楽しさを子供に語るという情景は、人の心にぬくもりを与えてくれる。「居並ぶ子どもは指を折りつつ日数かぞえて喜び勇む」。雪国の春は遠いが、それでも一歩々々確実に春に向かう▼「春よ来い」という童謡がある。「早く来い」と続き、家の前の桃の木のつぼみが「はよ咲きたいと待っている」と歌う。橋田寿賀子さんも、朝ドラ「春よ来い」に自分の人生を重ねた▼春一番で木々の芽がほころび、春二番で花が咲き始めるという。歳時記では春三番も季語にしている。「どこかで春が」生まれ、「どこかで芽の出る音がする」日が待ち遠しい▼「春が来た」の唱歌が教室に流れ、山に、里に、野にも春が訪れるころ、待ちに待った修学旅行シーズンが始まる。（北）

教育の今日的課題
―修学旅行への期待―　（上）

第13回全国修学旅行研究大会（平成8年12月4日　名古屋市教育センター）
講演要旨
東京家政学院大学
教授　成田國英

一、はじめに

私は、長野県松本市で高等学校まで過ごした。

私にとって修学旅行は小学校の時の一回しか経験がない。中学校の時は家庭の事情で修学旅行には参加せず、高等学校は修学旅行のない学校であった。

私が最初に海を見たのは小学校六年の時、修学旅行で新潟県の柏崎・鯨波に行った時である。初めて海を見た驚きは、口から心臓が飛び出るくらい、びっくりしたものである。

本日は、教育の今日的課題という演題を頂戴したが、考えてみると現在のような学校制度が固まったのは、明治五年の学制がしかれた時からであり、百二十年以上経過している。明治維新のわが国の合言葉は「富国強兵」であり、外国に追いつき追い越せであった。経済・産業、その基盤となる教育にしてもお手本にする国があった。

二、わが国の教育の現状

それから百二十年を経過した現在のわが国の初等中等教育、つまり幼稚園、小・中・高等学校の教育は、世界百九十を超える国々がある中で量・質ともに、そのトップレベルにある。高等教育についてはいくつかの問題を抱えているが、初等中等教育については、世界から今注目されている。

つまり、今までのわが国は模倣の時代であったが、これからは模索の時代であり、ある人は現在のわが国の教育は、「指標なき時代」だと言っている。第十五期中教審の七月の第一次答申では、「先行き不透明な社会」という言葉を使っている。また、ある人は、「チャートなき時代」とも言っている。

つまり、我が国の初等中等教育が将来、どちらに向いて進んでいくのだろうかというのが、世界の注目の事情で修学旅行には参加せず、高等学校は修学旅行のない学校であった。

私が最初に海を見たのは小学校六年の時、修学旅行で新潟県の柏崎・鯨波に行った時である。初めて海を見た驚きは、口から心臓が飛び出るくらい、びっくりしたものである。

本日は、教育の今日的課題という演題を頂戴したが、考えてみると現在のような学校制度が固まったのは、明治五年の学制がしかれた時からであり、百二十年以上経過している。明治維新のわが国の合言葉は「富国強兵」であり、外国に追いつき追い越せであった。経済・産業、その基盤となる教育にしてもお手本にする国があった。

二、わが国の教育の現状

それから百二十年を経過した現在のわが国の初等中等教育、つまり幼稚園、小・中・高等学校の教育は、世界百九十を超える国々がある中で量・質ともに、そのトップレベルにある。高等教育についてはいくつかの問題を抱えているが、初等中等教育については、世界から今注目されている。

つまり、今までのわが国は模倣の時代であったが、これからは模索の時代であり、ある人は現在のわが国の教育は、「指標なき時代」だと言っている。第十五期中教審の七月の第一次答申では、「先行き不透明な社会」という言葉を使っている。また、ある人は、「チャートなき時代」とも言っている。

私は、長野県松本市で高等学校まで過ごした。

私にとって修学旅行は小学校の時の一回しか経験がない。中学校の時は家庭の事情で修学旅行には参加せず、高等学校は修学旅行のない学校であった。

私が最初に海を見たのは小学校六年の時、修学旅行で新潟県の柏崎・鯨波に行った時である。初めて海を見た驚きは、口から心臓が飛び出るくらい、びっくりしたものである。

本日は、教育の今日的課題という演題を頂戴したが、考えてみると現在のような学校制度が固まったのは、明治五年の学制がしかれた時からであり、百二十年以上経過している。明治維新のわが国の合言葉は「富国強兵」であり、外国に追いつき追い越せであった。経済・産業、その基盤となる教育にしてもお手本にする国があった。

二、わが国の教育の現状

それから百二十年を経過した現在のわが国の初等中等教育、つまり幼稚園、小・中・高等学校の教育は、世界百九十を超える国々がある中で量・質ともに、そのトップレベルにある。高等教育についてはいくつかの問題を抱えているが、初等中等教育については、世界から今注目されている。

つまり、今までのわが国は模倣の時代であったが、これからは模索の時代であり、ある人は現在のわが国の教育は、「指標なき時代」だと言っている。第十五期中教審の七月の第一次答申では、「先行き不透明な社会」という言葉を使っている。また、ある人は、「チャートなき時代」とも言っている。

つまり、我が国の初等中等教育が将来、どちらに向いて進んでいくのだろうかというのが、世界の注目の事情で修学旅行には参加せず、高等学校は修学旅行のない学校であった。

私が最初に海を見たのは小学校六年の時、修学旅行で新潟県の柏崎・鯨波に行った時である。初めて海を見た驚きは、口から心臓が飛び出るくらい、びっくりしたものである。

本日は、教育の今日的課題という演題を頂戴したが、考えてみると現在のような学校制度が固まったのは、明治五年の学制がしかれた時からであり、百二十年以上経過している。明治維新のわが国の合言葉は「富国強兵」であり、外国に追いつき追い越せであった。経済・産業、その基盤となる教育にしてもお手本にする国があった。

二、わが国の教育の現状

それから百二十年を経過した現在のわが国の初等中等教育、つまり幼稚園、小・中・高等学校の教育は、世界百九十を超える国々がある中で量・質ともに、そのトップレベルにある。高等教育についてはいくつかの問題を抱えているが、初等中等教育については、世界から今注目されている。

つまり、今までのわが国は模倣の時代であったが、これからは模索の時代であり、ある人は現在のわが国の教育は、「指標なき時代」だと言っている。第十五期中教審の七月の第一次答申では、「先行き不透明な社会」という言葉を使っている。また、ある人は、「チャ

縄県に修学旅行を実施している。期待も大きく、また、よき思い出となるものである。この沖縄修学旅行では、第二次大戦において、わが国で唯一つ、住民を巻き込んでの地上戦が行われた歴史的事実を、語り部の方から聞き取り、そして今なお残る激戦の跡を見聞することによって、戦争の悲惨さと、平和の尊さを感じとることができるだろう。そして現在の沖縄の大きな問題である基地問題も、実際に基地が見える所に行くことにより、同じ一つの国にありながらあまり意識していなかった問題を浮きぼりにする。……」

つまり、この学校は、明確な目標意識・目的意識を持って沖縄を選択していることである。そして、さらに普段の生活では体験できない亜熱帯地方独特の風土や、日本と中国とのかかわりの深さや独自の生活習慣から作りあげられてきた琉球文化にも触れ、同じ日本でありながら、「その違い」を知ることができるということである。この学校でのもう一つのねらいは、これからの国際化時代を視野に入れている。

中教審の答申でも、教育の不易と流行について述べられている。例えば、基本的人権の尊重、正義感、思いやり等を不易と考え、一方、今日的課題として中教審では四つをあげている。国際化の問題、情報化の問題、環境問題、科学技術の問題、環境問題である。

その第一番目の国際化ということを考えた時、どうもわが国は同質にとらわれる社会であった。例えば、人と同じ行動様式、人と同じ考え方をしなければ異端者扱いにされる傾向があった。今、小・中学校で一番問題になっている「いじめ」も、このことが奥深く根づいているのではないかと思う。自分と同じ考え方をする者は同じ仲間、少しでも違った者は自分の仲間ではないという考え方である。

子供たちがこれからの国際社会に生きていくときに、今までの同質にとらわれた社会であったら、世界の百九十を超す国の人々と仲良くすることはできない。言葉の違い、肌の色、文化、歴史、生活様式、価値観などを考えたときに、違いを違いとして認めていかなければならない。広島のこの中学校は、郷土から一歩外に出て亜熱帯の風土に浸りながら琉球文化に触れることを目指している。

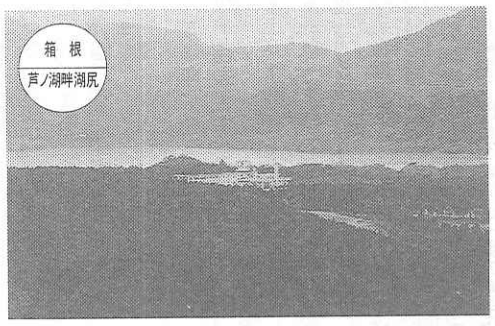
修学旅行を考えていくときに、前回（昭和六十二年十二月）の教育課程審議会の答申でも、わが国の文化と伝統を尊重するということが言われている。

これからの国際社会で貢献できる国民を育成するときに、日本の文化・伝統を尊重し日本の文化に十分触れさせることがない限り、日本人は国際社会の中では根無し草、糸の切れた凧のような存在になるのではないかと思う。

やはり国際社会に貢献し、活躍できる国民の育成を考えた時、まず子供たちが自分の故郷、そして日本の文化と伝統を理解し継承していくためにも、修学旅行にはっきりした目安を持つことが必要ではないか。

次に、これからの教育また修学旅行を考えたとき、「子供には能力がない、だから教師や大人が指導するのだ」という発想は転換すべきである。子供のよさを見取って指導に生かす発想が大切である。子供一人一人のよさを考えたとき、特に修学旅行で、子供たちに計画的に取り組ませる。それが修学旅行の直前ではなく、一年、二年、三年、と積みあげていくことが大切である。例えば、グループでの行動も子供たちに計画させ、子供にまかす教師の姿勢が大切である。

ジョン・デューイは「子供を太陽とする教育」また「重力の中心の移動」ということを言っている。教師の姿勢の中に、子供の活動がマンネリ化しているという発想があると思う。（つづく）

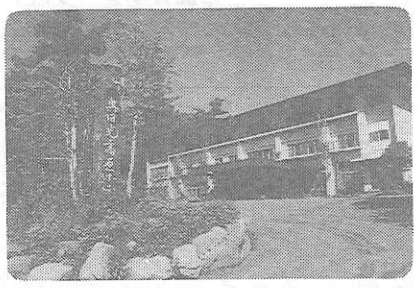


豊かな自然が息づく湖尻高原の中心。
箱根高原ホテルは、深い緑の中に
700名収容の大ホールや、
中小の研修室など、
数々の施設が整っています。
その他体験コースもいろいろ。
心にのこる想い出づくり
感動づくりに素晴らしい環境です。

湖尻高原の大自然に抱かれて
ハートフル・コミュニケーションをお約束します。

箱根高原ホテル
〒250-05 神奈川県足柄下郡箱根町湖尻
☎(0460)4-8595㈹ FAX.(0460)4-9488

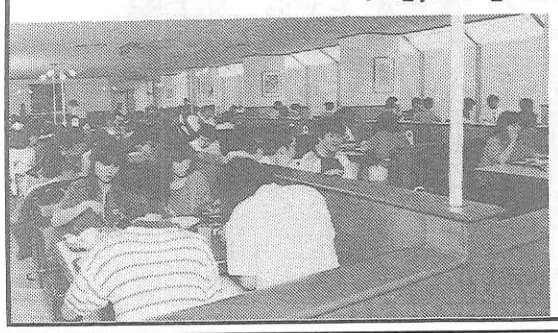
●修学旅行/林間学校/スキー体験学習
奥日光の自然と仲間たちとの語らい……



夏は林間学校、冬はスキー
自然探勝の基地として日光国立公園
内にたつ当ホテルをご利用ください
鉄筋3階建／小学生550名／中学生550名／
高校生450名収容／大浴場あり

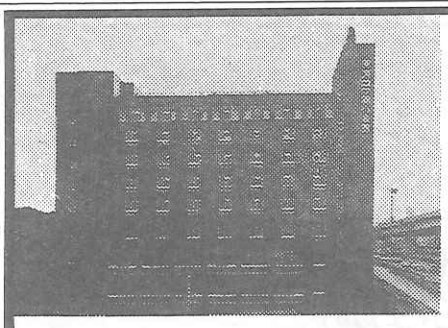
奥日光高原ホテル
〒321-16 栃木県日光市湯元温泉
TEL. 0288(62)2121(代表)

――修学旅行の楽しいお食事――
箱根彫刻の森美術館内
レストラン コンポート



◇500名様迄、ご利用いただけます。
◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。

〒250-04
神奈川県足柄下郡箱根町
二の平1121
☎0460(2)2221（予約センター）



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL(03)3585―1046(代表)

東京 コマ旅行会館